

ふくしま産業賞受賞事業所 新たな連携 本格化

米屋企業(須賀川) 大野村農園(相馬)

ミルクィー卵料理提供

福島民報社の第二回ふくしま経済・産業・ものづくり賞(ふくしま産業賞)受賞事業所の新たな連携の取り組みが本格化してきた。

ふくしま産業賞特別賞の米屋企業(須賀川市)が運営する「おとぎの宿米屋」で一日、金賞の大野村農園(相馬市)が生産する相馬ミルクィーエッグを使った料理の提供が始まった。



大野村農園の卵でシフォンケーキを作る山本さん

一つは米屋の人気企画「春のおとぎ会席」で提供する特製茶わん



特製茶わん蒸しの「山でひんやすみ」

二月に福島市で開催されたふくしま産業賞交流会の席上、米屋企

業の有馬裕寿社長・みゆき常務夫妻と、大野川一雄組合長と、東北

会津全域を管内に持つJ A会津よつば(本店・会津若松市、長谷川一雄組合長)と、東北

6次化へ包括提携締結

J A会津よつば 銀嶺食品(福島)

業の有馬裕寿社長・みゆき常務夫妻と、大野川一雄組合長と、東北

こと。全国の人が相馬が懇談した。魅力的な食材としてミルクィーエッグを使うことが決まった。

菊地代表は「有名な旅館で使用していただけるのはとても名誉な

立ち会った。席上、会津産米を使用

六次化事業に関する包括的業務提携を結んだ。調印式は会津若松市



業務提携を結び握手する長谷川組合長(中央左)と岡崎社長(同右)。左端は渡辺常務、右端は岩橋常務理事

2017年(平成29年)2月15日(水曜日)



立谷市長に受賞を報告した菊地代表(左)



ふくしま産業賞 大野村農園 菊地代表が訪問

相馬市長に受賞報告

福島民報社の第二回ふくしま産業賞で金賞を受けた相馬市の大野村農園の菊地代表

は十三日、市役所を訪れ、立谷秀清市長に受賞を報告した。

農園ではこだわりの卵「相馬ミルクィーエッグ」を生産・販売している。菊地代表は餌に魚のあらや地元産の米や野菜などを与えていることなど特徴を説明した。各方面から引き合いが多いことを挙げ、生産規模を拡大する考えを伝えた。

立谷市長は相馬ミルクィーエッグを口頃から食っており「とてもおいしい」と評価し、さらなる活躍に期待を寄せた。

する。コメの消費拡大、パンの販路確保などが期待される。初年度のパンの販売目標は五千万円に設定した。

四月一日から会津若松市のファーマーズマーケット「まんまーじや」などで先行販売し、取扱店舗を拡大。インターネットでも販売し、全国に広める。